学校教育だより
# まなびやまと
No.19
平成23年(2011年)3月
大和市教育委員会

## 市立小学校全19校に「学校図書館司書」配置「電子黒板」配備

市立小学校全校の図書室に、9月1日より、学校図書館司書が配置されました。
また、1月より市立小学校全校の普通教室に、昨年度末に配備された50インチの地上デジタル放送対応テレビに付加する形で、電子黒板が配備されました。
学校での様子の一例を紹介します。

## 図書室が変わる
### 中央林間小学校では…

中央林間小学校図書室の入口付近に、12月にはクリスマス関係の本が、1月には干支にちなんだうさぎに関係する本が並びました。「うさぎの本がいっぱいある。どれも表紙がおもしろい。読んでみたい。」と、二年生の児童は本を手にとり、話してくれました。

この展示を考えた原さんは、昨年9月1日、市立小学校全19校に配置された学校図書館司書の一人です。担任の先生と連携を取りながら、調べ学習に必要な本をまとめたコーナーを作ることもあります。「本のことを優しく、いろいろ教えてくれるので、勉強になる。」と児童にも好評です。

原さんは、この司書の仕事について「子どもは将来への希望です。経験で得られないことが本から得られます。読書を通じて、子どもたちが将来の夢を見つけることができたら、うれしい。そのお手伝いをしたい。」と熱く語ってくれました。

今後、中学校にも、学校図書館司書が配置される見込みです。「図書室が好き。」「司書さんに相談したい。」の声が聞こえてきそうです。

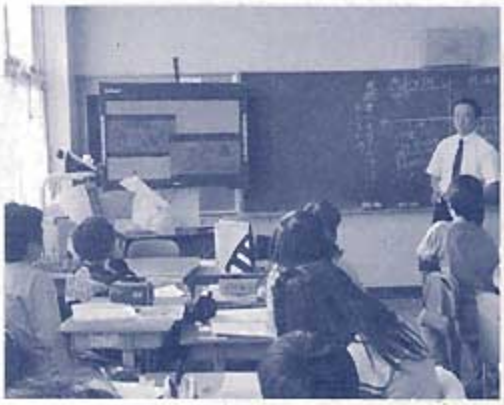
＊学校図書館司書…図書の貸し出しや返却、図書室の環境整備、図書の管理のほか、読み聞かせや子どもたちからの調べ学習の相談などを行う司書のこと。

## 授業が変わる
### 深見小学校では…

市の「情報教育推進校」である深見小学校は、文部科学省の「電子黒板を活用した教育に関する調査研究校」にも選ばれ、一年前から電子黒板を活用した授業実践を行っています。

国語の教科書の内容が入っているデジタル教科書を活用した授業を積み重ねた結果、先生方からは、「音読する力や漢字など文字を書く力がついた。」という声がありました。また、電子黒板とともに配備された実物投影機で、児童のノートや実験の様子を画面に大きく映し出すことも可能になり、児童の授業への関心意欲も高まっていきます。

11月12日に行われた研究発表会では、電子黒板から得られた情報をもとに、自分の考えを深めたり、意見を交換したりする児童の姿が見られました。



1月には、この電子黒板が市立小学校全校に配備されました。電子黒板の活用で、「楽しい授業」や「わかる授業」をより推進することができます。

市内各校で、「わかりやすくなった。」「電子黒板を使って学習するのは楽しい。」という児童の声をたくさん聞くことができそうです。

＊電子黒板…画面上でパソコンの操作ができたり、子どもたちが画面に書き込みをしたりすることが可能な、黒板と映像機器が一体化された情報機器

# ノーベル化学賞受賞者 根岸英一さん、母校を訪問

2010年のノーベル化学賞を米パデュー大学特別教授の根岸英一さんら3人が受賞しました。

授賞式に先立って、11月22日、根岸さんが母校である大和小学校、大和中学校を訪問しました。

## 大和小学校訪問 「よくあそべ よくまなべ」

全校児童が興奮気味に、校庭で待つ中、到着された根岸さんは感慨深げに思い出のイチョウの木を見上げました。

歓迎会で壇上の根岸さんは、「六年生の最後の学期だけこの学校に通いました。皆さん、いっぱい遊んでください。そして勉強も好きになってください。小中高の勉強がノーベル賞の基礎になっていました。」と話してくださいました。

代表児童から、「先生が卒業生であることを知り学校中が興奮しました。私には英語を学びたいという夢があります。迷ったり悩んだりしていますが、先生の受賞が背中を押してくれました。そして、今日、根岸さんが来てくださったことで、私たちはさらに大きな夢と希望を持つことができました。」と歓迎の言葉を述べました。

児童から花束と大和小学校で採れたギンナンを贈られ、根岸さんは「ギンナンは大好物で健康によい。ありがとう。」と受け取られました。

## 大和中学校訪問 「好きなことを見つけ、目標を高く」

大和中学校体育館では、約800人の生徒と同窓生が参加して歓迎会が開かれました。

講演で根岸さんは、「若い君たちは、好きなことを見つけること。そしてそのことを上手にできるようになること。この2つがとても大事です。好きなことだったら目標を高く設定してやり続けられる。夢を追い続け、あきらめないことが夢を実現に導く。」と熱く語ってくれました。

代表の生徒からは「夢を追い求めること、気になったことを納得するまで調べる探究心を学びました。今日、お話を聞くことができ、かけがえのない思い出になりました。この日を大事に、私たちも一生懸命学問に励みたいと思います。」と決意の言葉がありました。

この後の校歌斉唱では、根岸さんが自らタクトを振って熱唱し、2番の歌詞は独唱しました。その歌声からは、根岸さんの熱い想いが伝わってきました。

参加した生徒は「自分も努力し世界を驚かすものをつくりたい。この夢が叶うよう、あきらめずに頑張りたい。」と目を輝かせて話してくれました。

## 科学技術への夢を育む ―おもしろ科学館出展― 教員ボランティア

12月18日、「子どもサイエンスフェスティバル県央地区大会＝冬のおもしろ科学館＝」が生涯学習センターで行われ、約500人の子どもたちが参加しました。

このイベントでは、実験・観察・ものづくりなどの体験ブースやサイエンスショーなどが行われ、企業やNPO等に混じって、市内小中学校の教員もブースを出展しました。

草柳小学校の教員ボランティアによるブースでは、ノーベル賞を紹介する展示とヒイラギの葉脈のしおり作りが行われました。「筋の模様がいい。葉脈の上から紙を乗せて鉛筆でこすると、模様が浮き出てきそう。気にいったのでもう一つほしくなった。」とにこにこして話してくれました。

大和中学校の教員ボランティアによるブースでは、大きな塩のかたまり(岩塩)を、釘と木づちで割る体験が行われました。割れた破片をなめて、「しょっぱい。」と歓声を上げたり、スパッと割れた断面の美しさに驚いたりしている子どもたちも多くいました。

## 夢を持つと頑張れる
### ーバドミントン教室ー
### 大野原小学校

9月24日、大野原小学校で、六年生対象のバドミントン教室が開かれました。講師は、バルセロナ・アトランタオリンピックの元バドミントン日本代表選手の水井妃佐子(みずいきさこ)さんで、本教室は、スポーツに主体的に取り組む習慣をもってもらうことをねらって行われているものです。

準備体操では、「意識をもってやろう。」と早速アドバイスがとびました。

床にあるシャトルをラケットですくい上げ、20回空中へ打ち上げる練習の時には、なかなかうまくいかない児童の手を取り、丁寧にコツを教えてくださいました。水井選手に教わり1回だけできた児童は、「とてもうれしかった。」と、喜びを笑顔で話してくれました。

ネットを挟んでのペアでの打ち合いでは、児童に交じって、軽快な動きを披露してくださいました。

児童からの「辞めたいと思ったことはありませんか。」という質問に、「ちょっとあります。しかし、バドミントンが大好きだから、そして勝ちたいから、辞めずに続けました。大好きと勝ちたいが力になります。やりたいことを見つけてほしい。夢を持つと頑張れる、夢を持って欲しい。」と思いを語ってくださいました。

参加した児童は「スポーツは楽しい。中学でも部活に入ります。」と話してくれました。

## 挑戦する楽しさを
### ー「ギネスに挑戦」ー
### 緑野小学校

10月27日、緑野小学校では児童会主催の全校集会「ギネスに挑戦」が行われました。この集会は15年以上もの歴史があり、学年を超えて、いろいろな種目に挑戦する楽しさや喜びを知ることなどを目的としています。

当日までに、三~六年生の各クラスでは、種目、会場、ルール、PR方法など、さまざまなことを話し合い、準備をします。

今年は、3人一組で大きな雑巾かけをする「Z-レース」や「あき缶ボーリング」「ストラックアウト」「ピー玉すくい」などの種目が出されました。

一~六年生まで全校児童の一人ひとりが、やりたい種目に積極的に挑戦し、精一杯の記録を残しました。

集会を終えて、六年生は、「種目に挑戦するのも楽しかったけど、それ以上に、自分の担当する種目を楽しんでくれる子がたくさんいてうれしかった。」と感想を話していました。

## 人の役に立つ仕事を
### ーエンジニア体験ー
### 引地台小学校

11月26日、引地台小学校の六年生は、「ロボットのプログラミングや操作を通して科学・技術のおもしろさを味わう」を目的に、日本アイ・ビー・エム㈱の方を講師に招いて、一日エンジニア体験「レゴロボを作って動かそう」を行いました。この活動は、キャリア教育としても行われています。

始めに、「エンジニアとは」という話があり、続いてプログラミングの基礎を学ぶゲームをパソコンで行いました。その後、ブロックで車型ロボットを組み立てました。

次に、このロボットを動かすプログラムを作ります。パソコンに、モーターの強さや走行時間を入力します。このプログラム作りが難しく、試走・計測を繰り返して改良していきます。

コースを外れずにゴールできた時、児童は手を挙げて喜んでいました。「苦手なパソコンを動かしたり、組み立てたり、難しいことがたくさんあったけど、ロボットが思い通りに動いてくれた。とてもおもしろかったです。」「車やゲームにもコンピューターがたくさん使われていることを知りました。」と話していました。

最後に、講師から、「自分の作成したプログラムが世の中で役に立っている時や使ってくれた人からお礼を言われたりするととてもうれしい。この仕事でよかったと思う。」と、仕事のやりがいについて話をしてくれました。

児童は「システムエンジニアになり、車イスを押すロボットや人が行けない危険な場所に行って人を助けるロボットを作りたい。」と話していました。

【おらが学校】

# 地域に開かれた学校づくりをめざして

## 大和市立下福田小学校

創立33年目を迎えた本校では、「地域に開かれた学校づくり」をめざし、学校・家庭・地域が手を携えて子どもたちをはぐくみ、豊かな教育活動を展開しています。

**【さつまいもの収穫】**

毎年、地域の方の畑を借りて、さつまいもを植えています。収穫後は、家庭に持ち帰ったり、学校で調理して食べたりして楽しんでいます。

今年度は、校庭で採れた銀杏と共に販売して、学級文庫の本を買いました。

**【地域ボランティア】**

地域の方が、月に1回、校庭にある木の枝切り、草刈り、校舎内のペンキ塗り等をしてくださいます。また、三年生の地域学習や、一年生の生活科・クラブ活動での昔遊び伝承などで、講師もしてくださいます。

**【登下校指導】**

保護者・地域の方が、毎朝、通学路で登校指導をしてくださいます。同時に、あいさつや声かけもしてくださり、子どもたちも顔見知りの大人が増えて、安心して登下校できます。PTAでは、下校時にあわせて、月1回のパトロールを実施しています。

**【下福フェスティバル】**

今年度から、児童集会「下福フェスティバル」を地域に公開しました。各クラスでは、様々な遊びを工夫して、

他学年・保護者・地域の方を楽しませていました。学習の場面とは違う、子どもたちの活動を見ていただくことができました。

**【その他の特色ある活動】**

和楽器体験、水墨画体験、手話・車いすバスケット等の福祉体験、環境学習（引地川クリーン作戦）等、さまざまな活動を行っていますが、今年度は、社団法人発明協会による「サイエンスショー」も行いました。

四・六年生を対象にした天体実験です。体育館の真ん中に風船でできた月をおき、その満ち欠けを見たり、太陽・地球・月の位置関係や大きさの比較などを、風船や紙粘土を使って表したりしました。体験的に楽しく学習することができました。

# 若い力 完全燃焼

## 「よさこいソーラン」

## 下福田中学校

10月3日、下福田中学校三年生有志は市観光協会主催「第一回渋谷よさこい」に参加しました。

下福田中学校では毎年9月中旬に行われる運動会に全校で「よさこいソーラン」を踊ります。今年も6月下旬から練習が始まり、9月の運動会では全校生徒が一糸乱れぬ舞を演じ、その完成度の高さに拍手が鳴りやみませんでした。

その後に届いた今回の催しの誘いに、三年生の半数近い52人が、「伝統のよさこいが運動会で終わってしまうのはあまりに悲しい。もう一度舞いたい！」と参加の意志を示しました。

祭り当日、高座渋谷駅西口ロータリーを中心に、県内各地のよさこいを愛する13チームが集まりました。他チームのレベルの高さに驚き、生徒たちは、緊張に包まれていました。しかし、「人数と声では負けない。」と代表生徒が宣言した後に始まった迫力のある舞は、観衆の目を釘付けにしました。大きな拍手が送られ、「真剣な中に笑顔がみられ、とてもよかった。」と、声が上がり、アンコールでもう1回、舞を披露しました。

「完全燃焼しました。この仲間と踊れて最高の思い出になりました。」「最初は断るつもりでした。誘ってくれた友だちに感謝しています。」と話すその表情には自信がみなぎり、ひとまわり大きくなった生徒たちの姿がありました。

「まなび やまと」は、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。気軽にお読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。